

令和7年度 全国学力・学習状況調査について

羽島郡二町教育委員会

1.はじめに

全国学力・学習状況調査は、本年度も小学校6年生、中学校3年生及び学校を対象として、以下の様に実施しました。

- ・中学校調査(理科、生徒質問調査)：4月14日(月)～17日(木)
- ・小学校調査(国語、算数、理科)および中学校調査(国語、数学)：4月17日(木)
- ・調査は「教科に関する調査」、「児童生徒を対象とした児童生徒質問紙調査」、「学校を対象とした学校質問紙調査」の3種類の調査を行われました。

2.調査内容

(1)教科に関する調査

小学校6年生は5年生までの学習内容、中学校3年生は2年生までの学習内容から出題されました。この調査では、知識・技能の定着度を図る問題だけではなく、それらを実生活や課題解決に活用できる「思考力、判断力、表現力」を図る問題が出題されました。

◇調査教科と出題形式

- ・小学校6年生：国語、算数、理科の3教科が紙による調査で実施されました。
- ・中学校3年生：国語、数学、理科の3教科が調査されました。
- ・国語、数学：紙による調査で実施されました。
- ・理科：タブレット端末を使ってオンラインで受けるCBT(Computer Based Testing)方式での実施が初めてされました。動画や音声による出題で、生徒の探究的な学習や科学的な思考力を図る問題がお出されました。

(2)質問紙調査

◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(例)授業中の発言や考えを深める活動、家庭学習の習慣、読書時間、ICT機器の活用、生活習慣など

(3)学校を対象とした学校質問紙調査

◇指導方法に関する取組や人的・物的条件の整備の状況等に関する調査

(例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

3.教科に関する調査結果から

【国語】

	身に付いている内容	課題のある内容
小学校	<ul style="list-style-type: none">・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができる。・情報と情報の関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。	<ul style="list-style-type: none">・事実と感想、意見などとの関係を、叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する。・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること。

中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(記述式) ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる。(記述式) 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手の立場に立って、表記を確かめて、文書を整えることができる。 ・事象や行為を表す語彙について理解している。
-----	---	---

【算数・数学】

	身に付いている内容	課題のある内容
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる。 ・棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを数や言葉を用いて記述できる。 ・目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができる。 ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いたし、数学的な表現を用いて説明することができる。

【理科】

	身に付いている内容	課題のある内容
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・金属、水及び空気の性質について、体積や状態の変化、熱の伝わり方に着目し、それと温度の変化とを関係付けて論理的に予想・説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果(共通点や相違点)を基に、新たな問題を見出し、それを記述する。 ・植物の育ち方について、発芽、成長及び結実の様子に着目して、それらに関わる条件の制御について理解すること。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連に着目し、課題を設定したり課題に沿った振り返りをしたりして表現することができる。 ・実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電力の違いによって発生する熱や光などの量に違いがあることを見いだして理解すること。

4. 質問紙調査結果から

- ・小・中ともに、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」という考える児童・生徒の割合は、全国平均と比較すると増加しています。
- ・小・中ともに、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」という児童・生徒の割合は、全国平均と比較すると増加しています。
- ・小・中ともに、「人が困っている時には、進んで助ける」と行動に移している児童・生徒が全国平均と比較すると高くなっています。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と考える児童・生徒は多くいます。

・「人の役に立つ人間になりたい」と考えている児童・生徒の割合は、全国平均と比較すると小学校において、やや低くなっています。

5. 学力向上に向けての羽島郡二町内の小中学校の取組

羽島郡内の小中学校では、学力向上を目指して、次の二点について取り組んでいます。

(1) 授業では、「羽島郡『授業マニフェスト4』に取り組んでいます。また、前期末と後期末に、これらの取組状況について教師が自己評価をし、改善に役立てます。

- ・授業はチャイムで始め、チャイムで終わります。
- ・学習の見通しをもち、子ども同士で考えを深め合う場をつくります。
- ・考えたことや分かったこと、疑問に思ったことなどについて振り返る場をつくります。
- ・授業の最後に子どものよいところをほめます。

(2) 各校の実態に応じて、毎年『指導改善プラン』を作成し、各校にて下記の内容について工夫して取り組んでいます。

- ・「A:校内研究」、「B:補充」(基礎・基本の定着)、「C:家庭学習」、「D:個別最適な学び」、「E:協働的な学び」、「F:授業マニフェスト4」、「G:学力向上推進会議・学力向上委員会」

6. 保護者の皆様へ

◇子供はほめられて育ちます

子供をほめるときには、家庭での過ごし方の約束を作ることが大切になります。家庭学習の時間、家族の一員としての役割、スマホやパソコン(タブレット)の使い方などについて約束を決めて、必ずやりきらせてほめましょう。

(日々の学習習慣)

例:「毎日、決めた時間に机に向かっているね。」「分からなかった問題も、諦めずに最後まで考えていたね。」

(学習への向き合い方)

例:「テストの間違いをしっかり見直しているね。次につながるよ。」「友達に質問したり、先生に聞きに行ったり、自分から行動できていたりしてすごいね。」

「タブレットを使って学習を進めているね。間違えたところを『もう一度やるぞ』と頑張れた気持ちが素敵だね。」

(生活の中での成長)

例:「朝、自分で起きて準備ができるようになって、すごいね。」「いつも家族のお手伝いをしてくれて、ありがとう。」

◇いつも成長の願いをもって見守ってください

子供に対して成長の願いをもって見守っていると、小さな成長や成果にも気が付くようになります。また、子供達の「学ぶ心」を育てるためには、結果には表れなかっただとしても、そのプロセスや努力した過程を認め、応援することが何よりも大切です。そうすることで、期待に応えようとする前向きな心や自己肯定感が育ちます。

子供には無限の可能性が秘められています。どの子もよりよく生きたいという願いをもっています。その可能性や願いを最大限に引き出し、前を向いて、素直に歩む子供になるよう育ていきましょう。